

ようこそ！国労へ



国労せんだい

No. 2663
2013年11月15日
発行責任者 大沼 元
編集責任者 武田 昌仙



国労の絆を再確認した歓迎会

岸昭彦さんの復帰加入 新庄地区協が歓迎会

10月16日付で復帰加入した、新庄連合分会の岸昭彦さんの歓迎会が10月31日、新庄市内で盛大に開催された。新庄地区協議会の呼びかけにより、岸さんと共に働いたOBも参加し、一同はあらためて国労の信頼と絆を確認した。

歓迎会には勤務や交通事情による途中参加者も含めて30人が参加し、岸さんの復帰・加入を熱烈歓迎した。会では主催者である新庄地区協議会若野議長をはじめ、当該分会の能登井分会長、地本原子書記長と千葉組織部長が次々と歓迎の言葉を述べた。

また復帰した岸さんは、若干緊張した表情を浮かべつつも、「国労で頑張る決意をしました。皆さんよろしくお願ひします」としっかりと口調であいさつし、全参加者から盛大な拍手を受けた。

乾杯のあいさつは、須貝前新庄駅連合分会委員長が行い、「分割・民営化の辛く厳しい時期もあったが、今それを乗り越えて再度国

東北三地本が学習と交流

11・3 仙台工務協議会芋煮会
11・4・5 国労東北協議会第28回定期総会・活動家交流集会（東北労働講座）

11・9 第18回国労東日本マラソン大会
11・11 貨物中央行動
11・12 第2回執行委員会

国労東北協議会（斎藤庄司議長・盛岡）は11月4日（5日、盛岡市つなぎ温泉愛真館において（財）国鉄労働会館主催（盛岡・仙台・秋田地方部共催）による東北労働講座を開催し、50人を超える組合員と関係者が参加した。

講座では国労東日本弁護団の福田護弁護士から「非正規雇用・業務委託と労働法」と題した講演を受けた。引き続き、国労東北協議会による東北三地本学習交流会が開催され、東日本本部佐藤書記長からは東日本本部を取り巻く情勢と課題の話がされた。

その後、国労東北定期総会が行われ、向こう一年間の活動方針を決定した。翌日、本部眞子書記長が①東日本大震災からの復旧・復興と支援、②安全・安定輸送の確立、③組織強化拡大、④貨物賃金抑制反対と



三地本が真摯に学び合う

年末手当獲得の闘いについて問題提起をした。

次に組織拡大に向けて各地方から報告がされ、仙台地本からは、仙総支部阿部副委員長が同支部小池謙二さんの国労加入の経過報告と業務委託後における支部の取り組みなどを報告した。

続いて郡山駅連合千葉分会長からは分会における日々の取組みと若手に期待すること「働きやすい職場環境は、若手自らが作っていく決意が大切だ」と話していることや今後の拡大の抱負などが述べられた。また新庄連合分会（新庄運動区）で復帰加入した岸昭彦さんの加入に至る経過を地本武田執行委員が報告。他4人から報告を受けた後、全体

討論を行い、最後に東北協議会佐藤新議長の団結がんばろうで散開した。

全体討論の発言など

- ▼貨物会社は期末手当について、今後妥結しない場合は支払わないと回答しているようだが弁護士と相談の経過は（仙台）
 - ▼本部大会で書記長はスト配置も視野に入れると答弁したが準備状況は（仙台）
 - ▼北海道脱線事故は対岸の火事ではなく東日本も同じでないか（仙台）
 - ▼出向先会社の労働条件改善は喫緊の課題。千葉では直接交渉し、労働協約も締結したと聞く。情報の共有化を（仙台）
 - ▼検修合理化の団交の内容で未整理。請け負わせた業務
- 国労東北協議会新役員
- 議長 佐藤 浩一（秋田）
 - 副議長 佐々木 力（盛岡）
 - 副議長（兼）事務局長 大沼 元（仙台）
 - 幹事 後藤 重文（秋田）
 - 幹事 沢田 光広（盛岡）
 - 幹事 原子 清貴（仙台）
 - 幹事（貨物） 大越 喜一（仙台）

発言への答弁

▼貨物手当。会社から妥結しない場合は支払わないと文書で通告があったが、社長名でなく、公文書なのか、拘束力があるのか、非組合員はどうするのか、疑問が多々ある。折衝し情報を得て、貨協と相談し議論する。

▼スト配置。90年ストを実施したときの資料を集めている。実施は戦術委員会での議論、判断となる。

▼組織対策費とスト基金の扱い。扱いの決定については中央委員会だが、12月に全国代表者会議で議論する。移行の時期は、まだ不透明。代表者会議と中央委員会を経てから。

▼グループ会社の労働条件。千葉の状況など掘り努力をしていく。

▼請負関係。契約の中身を押さえる必要がある。災害等も請負契約書に入っていると。闇雲に業務拡大はできないと考える。

頑張った・6位入賞！

東日本マラソン大会

11月9日、皇居外周を使用した第18回国労東日本マラソン大会が開催された。駅伝の部では、「過去最低」のコンディション不良の仙台地本選抜チームであったが、昨年から2つ順位を上げて6位入賞を果たした。

じやじやじや！

(※「じえ」ではない)これだば入賞どころかエントリも難しいんでないか!?、という岩手からの声が聞こえてきそうなチーム事情であった。

キャプテン高橋真人が帰宅途中でバイクで転倒。膝が断裂し鎖骨が脱臼、今もボルトが入っている。



緊張の度合いからベテランと新人がわかります

エース南幅はストイックに自分をいじめ抜いたハートドレーニングが裏目に出て下肢を損傷。期待を裏切らない総力を誇る高橋真人は過去に交通事故で痛めた頸椎が痛み欠場だ。不動のトップランナー佐々木晴基も練習中の肉離れで2・5キロが限界という状況なのである。

しかしチームのお寒い事情はさておき、ボルテージが最高潮の男がいた。大知里正である。「今日は大会記録が出る予感がする」といきなりビックマウスだ。10月末の猪苗代ハーフマラソン大会に出場した大知里は、「八百人をこぼろ抜きたけど、六百人に抜かれて結局二百位だった」と何とも意味不明なレースの結果を披露していた。だが、確かにチームマネージャーの山口智によれば、調子が上向きなのは間違いないようで、今レースではアンカーを託された。地本選抜のアンカー。その地位に覆い被さる重圧は想像以上だ。

しかしその地位に満足し、饒舌気味に振舞う大知里に對し、すかさず高橋キャプテンが、「今日は調子いいからこぼろ抜きだな！みんな、大知里に任せて大丈夫だ！」とプレッシャーをかける。たちまち眉間にしわが寄り、眉毛が上について、緊張した時に見える表情に変化した。立場を理解し落ち着きを取り戻した様子だ。

高橋キャプテンは大知里だけにプレッシャーを与えているのではない。不可抗力の事故とはいえ、大会に万全の体調で臨むことが出来なかった自責の念を振り払うためにも結果を出すしかない、そのために渾身の力を振り絞って走るのである。自らに重圧を課しているのだ。

午後1時15分、スタートの合図と同時に一斉に17人のランナーが弾け飛んだ。

第一走者は佐藤勝成。故障で3区にエントリーした佐々木に代わり、花の1区に抜擢された。当然走力はお墨付きで、いつもいぶし銀の走りを見せる渋いランナーだ。マイペースの走りでも2区堀越章広に繋ぐ。往年の名ランナー、エミール・ザトペックを彷彿させるような喘ぎ苦しむ表情で走る堀越は、最年長の意地と誇りを胸に秘め、ただひたすらに走り抜き順位を一つ押し上げた。レース直後、「脚は大丈夫なんだが呼吸が苦しくてね」と漏らしていたが、一日30〜40本のタバコでは納得の喘ぎだ。

第三走者佐々木晴基、第四走者高橋真人と地本の実

元気をもらいました！

★10月19日〜20日、山形県上市市内において、第25回「コミュニティユニオン全国交流大会」が開催されました。国労からは地本婦人部の5人が全国の仲間と交流し、みなさんから感想を頂き、みなさんの活動を頂戴しました。

北海道から鹿児島までの75のコミュニティユニオン・2万人が参加する個人加盟の労働組合ネットワークで「あらゆる働き方に権利を！」を掲げて、パート・派遣・移住労働者など非正規労働者をはじめ、働くものの労働相談や組合づくり、権利運動を取り組んでいました。

既存の労働組合にどっぷり浸かっている私には演壇で報告される内容に初々しさを感ぜたり、分割・民営当時の激しい組合差別を思い起こしたりと刺激的な一日でした。渡された分厚い資料に各地で

力ランナー二人が順位をググッと押し上げて、初参加の柴田敬明へ7番で繋ぐ。数日前まで発熱と下痢でコンディションは最悪だったはずだが、言い訳一つせず、駅伝への急遽のエントリーを快く引き受けてくれたナイスガイだ。

家族の応援を背に受け順位をまた一つ上げた。

アンカーは「こぼろ

抜き」を託された大知里だ。しかし各地方の並み居る実力者がひしめくアンカーのポストで大逆転劇が起るはずもなく、6位のままフィニッシュ。

「こんなはずではなかった」という大知里の表情とは裏腹に、「こんなもんだよ」というチームメイトの表情が寂しかったが、現状維持して6位入賞は立派。

来年こそは万全のコンディションで大会に臨もう。そしてしばらく途絶えていた地本複数チームの擁立に向けて少し明るい材料も見えてきた。来年も明るく楽しく走ろう。

結果は、昨年優勝チームの盛岡に僅か49秒の差で涙を飲んだ長野地本Aチームが見事雪辱、栄冠を手にした。【敬称略】

様々な人が様々な行動を日夜取り組んでいることを知り、また会場に参加している約四百人の方々に力を与え、帰途に着きました。（佐藤）

みなさんの活動報告を聞いてみると、そこには甘えがなく、一生懸命働いている姿に新鮮な感動を得ました。「一人はみんなのために、みんなは一人のために」を実践している、労働者が団結することの大切さを思い知らされました。一方で国労という組織の大きさも感じることができました。あらためて労働組合の必要性を痛切に感じた集会でした。（横山）

雇用止め・解雇との闘いや、一時金・退職金などの扱い・要求など低賃金改善の闘い、また労基法を無視した使用者の一方的な支配、パワハラなどの問題で、「絶対泣き寝入りはしない」「一人

で悩まず誰かに相談すること」を強調していただきました。仕事は好きだけど、「俺たちは奴隷じゃない」と真剣に議論し団結し、組合を立ち上げ24時間ストを行使するなど、結果を出している話を聞いて、自分たちのあり方を考えさせられました。みなさんとてもパワフルで元気をもらいました。（加藤）

ものすごい参加者の数に圧倒されて会場に入りました。交流で知ったのは、「労働組合に関与していたという理由で一方的に解雇」されたり「満足な休暇も与えられず、あり得ない労働条件で

※コミュニティ・ユニオン

「コミュニティ」とは「社会」「生活協同体」、「ユニオン」は労働組合。日本の労働組合の多くが企業ごとに正社員だけを対象に組織されてきたのに対して、コミュニティ・ユニオンは、地域社会に密着して、パートでも派遣でも、外国人でも、だれでも1人でもメンバーになれる労働組合である。